

地方自治体実地体験レポート

研修員番号 A-83

所属府省 農林水産省

氏名 網本恵介

派遣先 佐賀県武雄市

「これからの公務員に求められる能力」

1、はじめに

私が本研修で訪れた佐賀県武雄市は、最近、地域の活性化や行政改革などで全国的にも注目され、行政視察などが絶えずあるということだった。

研修の初日にそういったお話を聞き、その理由を自分なりに探ろうと研修に臨んだ。

2、研修の概要

武雄市では様々な体験、経験をさせていただいたが、その中でも印象に残ったことを中心に述べて行きたいと思う。

初日は市の概要、財政状況、組織機構改革の説明を受けた。現在武雄市には、営業部、子供部、いのしし課、レモンガラス課といった特徴的な名前の部や課が多数ある。これは市長の発案で行われた組織機構改革であり、外からの注目を集めるためと、分かりやすい名前をつけることで市民に開かれた行政を目指すためのネーミングだということだった。実際、武雄市の特産品を市役所の人が東京のデパートなどで取り扱ってもらう、いわゆる営業活動の際などには、名刺を見せるだけで部の名前などが注目され、話のネタにもなるし、武雄市の熱意を感じてもらいやすく、とてもいい効果が出ているということだった。

二日目は、朝早くから地元の道の駅に伺った。8時半という時間に関わらず、駐車場は満杯。平日の朝からこれほどまでに人気のある道の駅とはどのような場所なのかと驚いたが、その理由は朝市にあった。武雄市は旧山内町、武雄市、北方町の合併によりできた市であるが、この道の駅では旧山内町でとれた農産物をメインに売り出している直売所を作った。最初は観光客など、市外、県外の人をターゲットにしていたようだが、新鮮でおいしく、しかもとても安価な野菜に地元の人たちが惹き付けられ、プロの料理人なども常連になっているということだった。また、道の駅に隣接しているなな菜というレストランも素晴らしかった。ここも毎朝採れた地元の野菜のみを使い、さまざまな料理を提供していて、1200円でのバイキング形式をとっている。店内では本当においしく、また健康的な料理が次々と並べられ、飽きることがなかった。ここも道の駅同様、観光客も多いが、地元の人も食べに来る、地元密着型の施設となっていた。

道の駅は通常、そのコンセプトから観光客をメインとしているが、地元の人を対象とした、スーパーマーケットの様な活用の仕方があるのだと非常に勉強になった。

四日目に見学した、いのししの加工所とレモンガラスの作業所は、現在の武雄が最も売り出している施策で、とても元気があった。

いのししは、農産物に被害をもたらす有害鳥獣に指定されており、これまでは駆除をしても地中に穴を掘り埋めるしかなかったものを有効利用しようと始まった事業である。

それほど大きな施設ではないが、ここで解体、精肉された製品は東京などからも注文が相次ぐほどの人気商品になっているという。これまではマイナスの効果しかもたらしなかったいのししをプラスに転換するという逆転の発想でこの事業をやろうとした市長や市役所の人達のエネルギーを垣間見た気がした。

レモンガラスに関しては、完全に市長の思いつきで始まった事業だというお話だった。九州の温暖な気候と耕作放棄地を有効活用するために、労働集約性の高い農産物で、これまで他の地域では取り組んでこなかったのがレモンガラスということだった。

現在は市内だけでなく、県内、さらには東京の伊勢丹などでも取り扱ってもらっているということで、市役所の営業力、外にアピールする力は今後公務員に求められる能力の一つなのだと感じた。

3、武雄市で学んだこと

武雄市で学び、印象に残っていることは2で述べた内容では全く足りていないくらい武雄市の元気な面を見せていただいた。

この元気の源泉は、市長にあるのだと強く感じた。組織機構改革、いのしし、レモンガラスなど、目新しい発想で取り組んできた武雄の施策のほとんどは市長の発案で行われてきたものだという。いわゆるトップダウン型のこのようなやり方には批判もあるだろうが、すくなくとも武雄では成功しているように思えた。ある種急進的な市長の手法にとまどい、反発をしている市民も少なくないようだが、そういった方々も意見をはっきりと言うようになったという。意見がないよりあった方が良く、その反発の精神も街づくりのプラスに変えて行くのだと市長はおっしゃっていた。

また市役所の方も市長のやり方に最初はとまどいもあったようだが、現在は市長顔負けのバイタリティに溢れ、武雄市を良い場所にしようと様々なユニークな発想で仕事をされていた。

これからの行政に必要なのはやはり魅力的な人の力だと強く感じた。ユニークな発想、単純な発想、逆転の発想で問題を解決する手段を持ち、それを分かりやすく市民に提案し、人をその気にさせていく。このような力を持つ人が武雄市においては市長であり、市役所の方々がそれらを受け継いでいくのだろうと思う。私もそのような行政官になりたいと考えている。

こんな武雄市でも、まだまだ問題はあると市長はおっしゃっていた。それは、よそ者の視点を持っていないことである。やはり市役所の方は武雄生まれ武雄育ちの人が多く、外から見た視点でしか見えない市の問題点、良い点が分からないということだった。市の職

員の採用方針で徐々に変えていくこともできるだろうが、外部からの人材をもっと取り入れるような人事交流をもっと行っていくべきだと思う。人事交流によって武雄市生え抜きの職員の方も外に出向き、能力の向上を図ることもできる。中央官庁と市町村の直接の神人交流の枠をもっと増やし、採用後3年以内くらいまでに一回はこの人事交流するという枠組みを作るなど、国としてもまだまだできることはたくさんあるなと感じた。